

平成22年度県立取手第一高等学校自己評価表

目指す 学校像	本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神のもとに自ら学び自ら考える力を育み、社会の変化に対応できる能力を備えた心豊かな人間の育成に努める。また、総合学科としての進学校を目標に教職員が一致協力し学校運営に努め、生徒一人一人の進路希望の実現と明るく活力ある学校づくりを目指す。					
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況			
<p>各分野の目標を達成するための教育課程はほぼ定着した。確かな学力を育成する指導のより一層の工夫に努める必要がある。特にアカデミック系列では希望大学への進学が可能となる学力を養う指導の強化、プラクティカル系列・インフォメーション系列では資格取得を活用した推薦入試に対する指導の充実をはかる必要がある。</p> <p>基本的な生活習慣面は、頭髪・遅刻については長期休業明けなどを除けば基本的にはしっかりしてきている。服装については一部にだらしのない着方をするものがあり、継続的な指導が必要である。また、公共の場でのマナーに問題のある生徒がいるがその都度指導しており改善している。</p> <p>部活動への加入率をさらに高め、また文化祭等の学校行事や各種委員会活動、学校内外でのボランティア活動等への参加を奨励することで高校生活の質的に充実させる必要がある。</p>	1 大学等進学希望実現にむけた効果的な学習指導方法の確立を図る。	①授業時間の確保に努め、興味・関心を持たせる授業を展開する。 ②授業のより一層の充実をはかり、生徒の学習意欲を喚起する。 ③小テストや週末課題を実施し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。 ④増進課外指導の継続や自習室・Q&Aルームの有効活用を図り、より高い学力を身につけさせる。 ⑤各分野の専門性や資格取得を活用した学力向上を一層推進する。	B			
	2 総合学科における効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	⑥教育課程の改善や進路目的別クラスの編成など総合学科の特性を活かした分野・系列別指導を充実する。 ⑦面談を通して進路希望と結びついた、より望ましい科目選択をさせる。 ⑧キャリア教育を推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成し、主体的に進路を選択する能力・態度を育成する。 ⑨進路選択のための情報分析と資料提供を積極的に行い、希望進路を実現できるきめ細かな進路指導を行う。 【国公立大学合格者5名、私立大学短期大学合格者150名、就職希望者内定率100%】	A			
	3 基本的な生活習慣を確立し、自己指導力を養成する。	⑩服装・頭髪・遅刻指導を全教職員の共通理解の元で継続的に実施する。 ⑪生徒が、積極的に挨拶する態度と習慣を育成する。 ⑫生徒が自主的に生活習慣を改善していく態度を育成する。 ⑬PTAや地域住民と積極的に連携を図り、信頼・協力関係を強める。	A			
	4 高校生活の充実を図る。	⑭体験入部や部活動紹介を通して部活動加入率を高め、部活動の活性化を図る。 【部活動加入率 55%】 ⑮文化祭等の学校行事や各種委員会活動の充実を図る。 ⑯心身の健康保持増進の指導に注力し、環境整備に努める。 ⑰ボランティア活動や道徳教育を推進して心の教育を充実するとともに、地域社会に貢献する。	A			
	評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題
	教科指導	わかりやすい授業の展開 基本的学習習慣の確立 基礎力・応用力の養成 個々の生徒の能力の伸長	総合学科として各分野の目標にそった授業計画を毎時間きちんと立案し、わからせる努力をする。	①②	A	わかりやすい授業という点ではアンケートでは1年次8割以上、2・3年次が5割以上である。基本的学習習慣については今後の大きな課題である。
			授業後に指導内容を点検し、教科会等での検討を通じて、次時の改善に生かす。	①②	A	
			1・2年次の英語・数学・国語の主要3教科については特に基礎力・応用力の向上を推進する。	①②	A	
			1・2年次の英語・数学・国語の主要3教科を中心にして週末課題や小テストを行い学習習慣の確立に努める。	③④	A	
	教科	基礎学力の向上をはかるとともに、国語に対する関心を高める。 数多くの作品を深く読解・鑑賞することで心豊かな人間形成を目指す。	面談や観察を通して生徒個々を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。	⑤⑦	A	・模試(受験)を意識した定期テストを心がける。 ・学力上位層についてはさらに学力アップを図る。 ・古文・漢文の家庭学習量を(課題等を与えながら)増やしていく。
			学習効果を上げるため、単元終了時には小テストを実施し、事後の指導の徹底を図る。	③	B	
			資格検定（漢字検定2級）の取得数を昨年度比15%増を目標とする。	⑤	C	
			音読・朗読・暗唱などの読みの徹底を図ることにより、古典の世界に溶け込ませる。	②	A	
			古文単語テストや暗唱テストを実施し、関心を喚起することで次段階への足がかりとする。	③	B	
			単元終了時に関連作品や案内をする。また、要旨や感想文などをまとめさせることで、自己の内面を見つめ表現する力を養う。	②	B	
	進路に対応した授業を展開する。	生徒の実態に即した教材の採択をし、授業形態にも配慮する。	②	A		
一人ひとりの個性を伸ばすため、また多様化された社会に対応できるように、偏りのない多くの教材を学ばせるよう配慮する。		②	A			
図書館を利用した読書指導を強化し、進路指導の一助とする。		②	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	地歴公民	基礎学力を定着させる。	教材や板書の内容をよく練り、必要な知識をしっかりと伝達できるように努める。	①	A	A ・ICTを活用する。 ・時事問題を取り入れる。 ・ICTにより興味・関心をひき出すとともに一般受験対応型の問題演習を行う。
			単元や教材の終了時にはその内容に応じたまとめを実施し、事後の指導の徹底を図る。	②	B	
		進路に対応した授業を展開する	学習内容に応じて視聴覚教材やパワーポイントなどを適切に使用し、多面的な知識の定着を図る。	①	A	
			現在の社会情勢との関連付けを授業内容に盛り込み、進路実現や現代社会に生きる社会人になるために必要な知識を育む。	①	A	
	数学	基礎学力の定着をはかる。	基本計算の反復練習をさせる。	③	A	A 家庭学習習慣の定着をめざす。
			習熟度別クラス編成により、きめ細かい指導を行う。	②	A	
			補習や課外を実施し、生徒個々の学力の伸長に努める。	④	A	
		家庭学習習慣の定着をめざす。	工夫した授業により、数学に対する興味・関心を高め、家庭でも学習するよう常に促す。	①	B	
			課題を定期的に与える。	③	A	
		課題テストを定期的に実施する。	③	A		
		模擬試験・センター試験に対応した指導を行う。	教科書の例題や問いを説明する中で、模擬試験にもつながるよう意識した授業を行う。	①	A	
			模擬試験やセンター試験レベル等の問題を必要に応じて取り入れ、基礎的な学力を高める。	①	A	
	理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施により科学的興味をもたせる。	①	A	A 実験を取り入れる。
			身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	①	A	
			観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。	①	A	
		科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、レポートの考察の方法について指導する。	②	B	
			課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	②	B	
			授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	②	A	
	大学入試レベルの学力を身につける。	小テストなどで基本的な概念や原理・法則の定着を図る。	③	B		
		課外を積極的にを行い、入試問題を解くことに慣れさせる。	④	A		
	模擬試験前には過去問を解かせ、模擬試験実施後には解説を行い弱点の克服に努める。	④	A			
保健体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	⑫⑬	A	A ・保健学習ではグループでの調べ学習をこれまでよりも多く取り入れ、発表する機会を増やすこととお互いの考えや意見を交換できるようにする。 ・体力を高めるために、より効果的な運動を取り入れる。 ・お互いに声をかけやすい雰囲気作り、グループ活動を充実させる。	
		グループ学習を通して価値観を広げる。	⑫⑬	B		
		自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	⑫⑬	A		
	体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	⑫⑬	A		
		体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	⑫⑬	B		
		測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	⑫⑬	A		
	自主的・主体的に取り組む活発な雰囲気や活動するとともに、集団行動のマナーを身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声でのあいさつの励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	⑪	A		
	声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養う。	⑪	B			
	体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し、生徒の自主性を育てる指導をする。	⑪⑫	A			
	施設・用具を大切に扱う態度を身につけさせる。	⑫	A			
音楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情や感性を高め、主体的な活動を行う授業を展開する	授業の目標に沿った授業計画を立案し、創造的な音楽活動の工夫をする。	①	B	A ・生徒個人の能力に対応したため、一つ一つの単元に時間がかかり過ぎた。	
		体験的な活動を多く取り入れ、様々な音楽に興味・関心を持たせる。	①	A		
		個別のきめ細やかな指導により、演奏技能を高めるよう努める。	②⑤	A		
		教科書の他、鑑賞教材や生の音楽を用いて、豊かな情操を養う。	②	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	美術	美術Ⅰ 作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	①	A	A デザインや、色彩のことなどの基礎を学び、応用してデザインや平面、立体の作品を制作する。
			作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。	①	A	
			自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。	②⑤	A	
			美術Ⅱ 発想力、構想力を高め、個性豊かな美術能力を育てる。	①	A	
			作品制作前にコンセプトを考え、完成後に感想、反省などの自己評価を書かせ提出させ、講評を行う。	②	B	
	書道	基礎的な知識や鑑賞法、表現法を習得させ、書道を愛好する心情や感性を高める。	使用する用具、用材の成り立ちや製法、使用法、保管の仕方を学びながらものを大切にすることを学ばせる。	①	B	A ・鑑賞教材を充実させ、豊かな表現技術の習得と意図した作品の制作が出来るようになる。
			古典作品や生徒間の作品を鑑賞させ、豊かな表現技術の習得と意図した作品の制作が出来るようにする。	②	A	
			授業の内容に適った教材の準備と工夫に努める。	①	A	
	英語	自発的、継続的学習力の育成	予習、復習、週末課題、小テスト等を通し、継続的に家庭学習が必要であることを体得させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	②③	C	B ・各授業で予習チェックなど家庭学習を増やす工夫を考える。 ・英検取得者2級3名、準2級57名(11月現在)更なる合格者増を目指す。 ・より生徒の進学ニーズにあった課外を企画・実施する。
		基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る	授業重視の学習に加え、大学入試を念頭に3年間を見据えた計画的な指導を組み立てる。英検受験を教科指導の柱のひとつとして、準2級取得者65名、2級取得者5名を目指す。	⑨	B	
		一般入試での大学進学可能な英語力の向上を図る	上位層の伸張を図るための課外授業を充実させる。	⑨	B	
	家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	身近な生活課題を取り上げ、問題解決的な学習展開の工夫に努める。	⑤	B	B ・実習には意欲的に取り組むが、座学になると授業に集中できなくなる生徒が増えてきている。興味関心を抱かせる教材研究を心掛けたい。
			実験・実習により学習の効果を高める。	⑥	A	
			確実な定着を図る意味で学習を振り返り、自己評価・確認小テストを実施する。	⑦	B	
			興味・関心・楽しさを感じる授業作りに努める。	⑤	B	
			学習環境を整備し火気・用具・材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	⑥	A	
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の「分野説明会」における説明と「分野基礎」の授業を通し、「メカニック分野」「情報技術分野」で学ぶ内容を良く理解した上での選択をさせる。	①⑥	B	B ・分野基礎2単位では、授業時間数不足である。 ・新2年次の工業の人数が多い(メカ20人、情技21人)ため、パソコンを使う授業に支障が出るのが懸念される。
			1・2年次の授業で、「工業数理」、「工業基礎」の内容を補い、専門的な基礎力の向上を目指す教育を推進する。	①②	B	
		資格指導を充実させる。ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格である「工事担任者」、「ボイラー技士」等については、授業や課外授業において的確な指導を行う。	⑤	B	
			「危険物取扱者」「アーク・ガス溶接」等の資格・検定受験について裾野を広げた取り組みを行う。	⑤	A	
時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。		ロボット・制御技術、およびCAD・CAMなどの先端技術を取り入れた授業と実習および課題研究等の成果にもとづいた進路実現(推薦、AO、就職)を図る。	⑨	A		
		レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取入れ、技術者として必要な表現力を育てる。	⑨	B		
商業	わかる授業の展開	生徒の基礎学力を把握し、全体指導・個別指導を効果的に実施し学習内容の定着を図る。	①②	B	B 生徒が授業に臨む姿勢はよい。学習内容のより一層の定着を図るためには、家庭での学習習慣をいかにつけるかである。	
	専門性と学力の向上	生徒の進路希望実現に生かせる専門知識の向上及び上級資格の取得に努める。	⑥⑧	B		
	検定試験の合格率をたかめる	検定試験直前特訓課外を実施し、資格取得への意欲の向上と合格率の向上に努める。	④	B		
	家庭における学習習慣の確立	宿題・課題・小テスト等を授業担当者が工夫し、生徒が家庭学習をする習慣を身につけるよう努める。	③	C		
情報	情報社会において必要な基礎的な知識・技能を身につけさせる。	コンピュータ用語などの最新の用語を授業に取り入れ、新聞記事やニュースなどを用い、知識の習得を図る。	②	B	A 最新の用語を授業に取り入れることはできたが、新聞記事などを活用する時間は取れなかった。次年度は検定重視の授業方針から、新聞記事なども取り入れた授業展開に変更してきている。検定の合格率については、情報処理検定96%、ワープロ検定83%と目標以上の成果を残してくれた。	
		ワープロ、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い課題を提出させ、基本的な操作技術を身につけさせるとともに実社会に役立つ態度・考え方を育成する。	⑧	A		
	資格取得をとおして、情報社会に対する興味・関心を引き出すと共に、進路に対する意欲を高める。	9月に情報処理検定、11月にワープロ検定を必須とし、更なる合格率の向上に努める。 情報処理検定 95%以上 ワープロ検定 80%以上	⑤	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	分野の編成および開設講座等のあり方についての見直し。	「教育課程検討委員会」とともに、現在の教育課程の問題点を探り、新教育課程への移行に備える。	⑥	A	B ・分野の在り方についての検討および新学習指導要領に対応するための教育課程作成については、現在検討中の課題であるが、「総合学科としての進学校」という学校課題を見据えながら今後の検討を進めていきたい。
	資格・検定等のデータの有効利用	専門性や資格取得を活用した推薦入試・就職体制を一層推進するための資格・検定試験の合格者データなどの資料提供等を行う。	⑤	B	
	学校広報活動の充実	保護者・地域住民・中学生・卒業生との係わりをもつための広報誌の発行、「ホームページ」による本校の教育活動の紹介や各年次、校務分掌等の活動や情報の公開を継続し、さらに充実する。	⑬⑰	B	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	頭髪・服装指導を継続的に実施し、頭髪・服装の適正化を図る。	⑩⑫	A	A 基本的な生活習慣の育成のための遅刻・服装・頭髪指導を継続する。また、交通安全指導については全校生徒対象に交通安全講話実施し、また原付免許取得者に安全講話を実施するなど重点的に取り組む。
		毎日の遅刻指導と、月間の指導の併用により遅刻者の減少を図る。	⑩⑫	B	
		登下校指導を継続的に実施し、挨拶指導をするとともに、生徒とのコミュニケーションを図る。	⑪	A	
	問題行動の予防	教科、HR、講演会をとおして問題行動の未然防止に努める。	⑫	A	
	保護者・地域・関係諸機関	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑬	B	
保護者に、登下校指導や学校行事への積極的な参加を依頼する。 地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との連携を図る。		⑬ ⑬	A A		
進路指導	就職指導の強化	積極的な求人開拓を通して、企業に対して理解を求め、1社でも多くの求人を確保する。	⑨	A	A 進路指導とは疎遠になりがちな2年次との連携強化を図る必要がある。進路情報の提供に重点を置くのではなく、継続した意識付けの工夫、学習意欲の向上、インターンシップの奨励等、キャリア教育を土台とした指導の展開が望まれる。
		ガイダンス機能を生かし、就職希望者に対する事前・事後指導の徹底および充実を図る。	⑧⑨	A	
		ハローワーク等外部の機関との連携を強化し、就職未決定者を極力少なくするよう努める。	⑨	A	
	各年次との連携強化	3年次との連絡・打ち合わせ等を密に行うことによって、年次および進路指導部の仕事の進捗状況等を把握する。	⑨	A	
		1・2年次とは、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」やHR等において進路に関する内容を扱う際に、情報交換や資料の提供等を行う。	⑦⑧	B	
	キャリア教育の充実・発展	「進路の手引き」をHR等で有効に活用できる機会や、年次単位で行う進路ガイダンスとの調整を図る。	⑨	B	
キャリア教育に関する教材・資料等を提供し、HR等で活用することによって、キャリア教育に関する理解が深められるよう努める。 インターンシップを積極的に奨励することによって、生徒の職業観・勤労観を育む機会とする。		⑧ ⑧	A B		
進学指導	全生徒の進路実現のために要求される学力の向上、大学入試に対応できる応用力の増進	週2回の朝の小テストの活用、Q&Aルーム・自習室の利用促進、課外授業の充実などによりさらなる学力向上を図る。	③④	B	B 数名程度に停滞している自習室利用を成績上位層への呼びかけ 3年次で展開されている進学指導の情報を全年次で共有できる場を設定する。 推薦入試に特化した指導を強化し国公立大合格5名以上を小論文対策、模試関係の業務などの分担化をすすめる 進学行事を全年次継続実施して進学意識の向上に努める。 推薦入試関係の資料に加えて一般入試にも対応できるデータの提供を実現する。
		電光掲示板、ホームページ、しながく通信、進学講演会、大学出張授業、個人面接資料配布などを通じて、教員への進学指導支援体制を確立する。	⑨	B	
	大学進学指導体制の充実を図る 国公立大学合格者5名以上 私立大学合格者150名以上	年次、進学指導部間の連携を密にして、国公立大学を目指す生徒の個人指導を強化する。	⑨	B	
		一般入試受験者にも対応できるより効果的な授業の実践及び受験指導の充実を努める。	④	B	
	大学説明会への参加や進学先進校訪問を積極的に行い情報収集に努める。また国公立大学主催の出張授業やバス見学会などを展開し、進学意識の向上を図る。	⑨	B		
進路の手引きを効果的に使用し、進路選択に有益な指導を展開する。	総合学科卒業生の個人データを蓄積、分析し、本校独自の合格指針を確立を目指す。卒業生の合格体験記を電子データ化する。また毎年発行している進路の手引きを効果的に活用した受験指導を展開する。	⑨	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と、豊かな心の育成	ロングホームルーム・道徳・総合の時間等を中心に、学校生活のあらゆる場面で心の教育が行えるように努める。	⑩⑪	B	A ・豊かな心の教育 ・部活動加入率の増加と活性化 ・生徒会活動の充実 ・PTAとの連携と協力 ・芸術鑑賞会の実施
	部活動の活性化	ボランティア活動への積極的な参加を促し、自ら地域社会に貢献する姿勢を身につけさせる。	⑪	A	
	学校行事の充実	部活動紹介や体験入部を新入生を対象に実施することにより、人間性を高めるうえで最も重要な役割を果たす部活動や同好会への参加意欲を高めるとともに、その活性化を図る。(部活動加入率55%)	⑭	A	
		生徒会を中心とした自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑮	A	
	各年次やホームルーム・地域・PTAとの連携を図りながら学校行事を充実させ、よりよい学校生活が過ごせるよう努力する。	⑮	B		
保健	生徒の学習・生活環境を整備する。	校舎内外の安全点検と保健委員による清掃点検を実施する。	⑮⑯	B	A ・安全教育の実施 ・緊急時の対応マニュアルの見直し ・年間指導マニュアルの見直し ・作成・豊かな心の育成 ・支援学校の理解
	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	定期的に水質検査や照度検査を実施する。	⑯	A	
		健康診断や身体測定の結果を有効活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑫	B	
	思春期の心の育成と豊かな感性を養わせる。	感染症の予防やケア対策を図る。【昨年度の半数(60名)以下になるように努力する】	⑯	A	
	教育相談の体制と充実を図る。	⑯	A		
		より豊かな成長の確立を目指し、主体的に自らの心と身体に向き合えるよう講演会や保健便り等で情報を提供する。	⑯	A	
渉外	PTA諸活動を助成する。	保護者と教職員双方有益な事業計画実施に向けての調整を行う。さらに、生徒への還元という事を視野に入れて立案する。	⑬	A	A ・PTA関係では総会出席率のさらなる向上を目指し、内容を検討する。 ・90周年事業を具体的に展開するために同窓会とPTAと学校側の連絡を密にする。
		PTA総会の工夫として、進路指導部と共催で講演会を実施し、案内は郵送する。	⑬	A	
		単位PTAとしての活動を活性化する。(取手市・県南・県・関東・全国)また、各事業の参加については担当を分担して行う。	⑬	A	
	同窓会活動を助成する。	90周年事業の成功に向けて、積極的に関わりを持っていく。	⑬	A	
		同窓生の膨大な人的な財産を有効活用し、生徒へ還元をしていく。	⑬	C	
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。	オリエンテーション(1年次)、修学旅行(2年次)、進路研究(3年次)等、年次の具体的活動内容を把握し、その学習活動に沿った資料の計画的意図的提供をする。	⑪	A	B 入館者数は増加したが、貸出数は減少した(昨年度比)。今後、図書通信等の広報を高め、より利用しやすい館内作りを心がけていきたい。尚、老朽化あるいは館内に不要と思われる物品等は廃棄できたが、長らく故障中だった換気扇、ストーブ等は修理改善し衛生面でも気を配りたい。
		清潔で明るい魅力ある図書館の雰囲気づくりに努める。また、図書通信を発行し書籍への興味・関心を喚起する。	⑪	B	
	本校の学習活動・教育活動を援助する。	年次の協力を得て、少なくとも年度内に1回はLHRを活用した集団読書を実施する。	⑥	B	
		長期の休業時に読書感想文を課題とし、コンクールに応募する。	⑪	B	
	図書委員会活動の強化を図る。	大学入試や就職試験等、生徒の進路に繋がる読書を勧めることにより読書意欲を高める。	⑧⑨	B	
	初回の委員会において委員としての役割を十分に認識させ、各係が年次の枠を越えたグループのなかで協力しあえるよう指導する。	⑮	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題
3年次	学習活動の一層の充実を図る。	授業を大切にするとともに、課外授業や補習授業を実施し学力の向上を図る。	①②	A	A ・ 基本的生活習慣の確立。 ・ 家庭学習を定着させ確かな学力を身につける。 ・ 年次目標をより一層明確とし、生徒を含めた年次全体の共通意識とする。
		資格取得や模擬テスト・実力テストを実施することにより学力を確認し、進路決定につなげる。	⑤	A	
		進路意識をしっかり持たせ、家庭学習を定着させる。	③	B	
	進路希望の実現を図る。	適切な情報の提供を行うとともに、面接等実施し、生徒の希望・能力・適性を把握する。	⑦	A	
		大学・短大進学希望者に対し、多様な入試形態に対応できるようアドバイスし、さらに進学者数を増やす。	⑨	A	
		専門学校希望者に対し、将来の就職を考え、高い意識で取り組ませるよう指導する。	⑨	A	
	高校生としての品格を高める。	就職希望者に対し、分野の特性や個人の適性をふまえ、適格な企業選択ができるよう指導する。	⑧	A	
最上級生であることを自覚し、身だしなみや言動に模範的な行動をとらせる。		⑪	B		
	時間を大切にし、ルールを守り自ら考えて行動できるようにする。	⑫	B		
2年次	基本的生活習慣の確立	面談や観察を通して生徒個々を把握し、的確な指導・援助を行うことで、生徒個々・年次全体の健全な成長を促す。	⑩⑫	A	B ・ 進路決定に向け自主学習能力を育むとともに、自ら勉強に取り組む体制を整える。 ・ 授業を重視し学力の定着と向上に努める。 ・ 挨拶、服装、時間を守る等、社会に必要な基本的生活習慣を身につける。 ・ 進路指導に必要な資料の共有化と活用方法の充実を図る。
		集団生活において時間及びルールを遵守する。	⑩	B	
		挨拶の励行および言葉遣いを正すことで、高校生としての品格を高める。	⑪⑫	B	
	基礎学力の定着と向上	授業を重視し、積極的に取り組ませるよう常に啓発し、指導・援助を行う。	①②	B	
		週末課題の活用や、家庭との連携を通して、家庭学習が定着するよう啓発・指導・援助を行う。	③	B	
		課外および自習室・Q&A室の利用を促し、学力の向上に努め、定期考査や模試で成果を上げる。	④	B	
	分野の専門性を活かした進路の方向性の決定	将来を考えた、長期的・多角的な視点から進路を考えさせ、より高度な進路の方向性を決定するよう指導する。(数値目標 大学進学希望160名、内国公立大学進学希望40名)	⑨	A	
		分野特性に応じた資格取得により進路選択の幅を広げる。	⑤⑥	A	
		進路についての情報の提供を積極的にいき、面接を適宜実施して、生徒の希望・能力・適性を把握する。	⑦⑧	B	
	特別活動への積極的参加	上級学校の見学により進学先の理解と意識付けを行う。	⑧	A	
部活動への加入を促進し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。		⑭	B		
行事・委員会・ボランティア活動・HR活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。		⑮⑰	B		
修学旅行へ積極的に参加し、集団生活における望ましい人間関係の構築と、自身の人間性を高める。		⑩⑪⑫	A		
1年次	高校生としての基本的生活習慣を確立させる。	進路・学習目標の達成のための基盤であり、基本的生活習慣の確立が全ての可能性を高めることに繋がると考え、HR・集会等を通して的確な指導を行うことで、年次生全体の健全な成長を促す。	⑩⑪⑫	B	B ・ 基本的な生活習慣を確立させる。 ・ 家庭学習時間の確保は大きな課題であり、週末課題の提出や朝の小テストの良好な取り組みを定着させる。 ・ 分野の特性を活かした進路実現の意識付けと、進路情報の共有を図る。
		授業を重視し、積極的に取り組ませるよう常に啓発し、指導・援助を行う。	①②	A	
	学習習慣を定着させる。	週末課題の活用や、家庭との連携を通して、家庭学習が定着するよう啓発・指導・援助を行う。	③	B	
		課外や自習室やQ&A室の利用などを通し、学力の向上に努める。	④	A	
		適切な進路の方向性を決定させる。	⑥⑧	B	
	特別活動へ積極的に参加させる。	将来を考えた、長期的・多角的な視点から分野を決定させ、より高度な進路の方向性を決定するよう指導する。	⑦⑨	A	
		進路についての情報の提供を積極的にいき、面接を適宜実施して、生徒の希望・能力・適性を把握する。	⑦⑨	A	
	部活動への加入を促進し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑭⑯	B		
	行事・委員会・ボランティア活動・道徳教育を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑮⑰	B		

※評価基準 A: 大変よくできた B: よくできた C: やや不十分 D: 不十分